

令和 元 年 6 月 19 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02456

研究課題名（和文）手引書としてのマーティノー『経済学例解』研究 - 物語による専門的知識の普及

研究課題名（英文）A Study of Martineau's Illustrations of Political Economy as a Primer: Diffusion of Specialized Knowledge by Tales

研究代表者

松本 三枝子（MATSUMOTO, Mieko）

愛知県立大学・外国語学部・名誉教授

研究者番号：90165910

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000 円

研究成果の概要（和文）：ハリエット・マーティノーの『経済学例解』を新たに手引書の観点から検証し、十分な知識を持たない一般の人々に専門的知識を普及するために有効な方法とその特性を明らかにした。19世紀のイギリス同様に、現在の日本でも専門的知識を社会全体で共有することが、社会の安定や人々の幸福のために不可欠である。『経済学例解』はその成功事例として検証にあたいする。

第1に、国教会福音派のハナ・モアとの比較研究により、マーティノーのユニテリアン主義の平等性を明らかにした。第2に、手引書の先駆者であるジェーン・マーセット著『経済学対話』との相違点を検証することで、『経済学例解』の物語形式が持つ先駆性と有効性を明確にした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

19世紀のイギリス同様に、現在の日本でも専門的知識を社会全体で共有することが、社会の安定や人々の幸福のために不可欠である。『経済学例解』はその成功事例として検証にあたいする。

日本国内ではほとんど看過されてきたハリエット・マーティノーへの低い評価を見直した。特に『経済学例解』の物語形式に注目し、専門的知識を一般の人々へ普及する場合に、シミュレーションとして物語が持つ影響力と特徴について分析した研究成果を、日本英文学会、日本比較文学会などの幅広い学会のシンポジウム及び研究論文で、積極的に公表した。また、一般の人々を含む研究会や、英語教員養成のテキストなどにも、蓄積した知見を活用した。

研究成果の概要（英文）：Harriet Martineau's Illustrations of Political Economy was examined closely as a primer and useful ways were explored to diffuse specialized knowledge to ordinary people without higher or professional education.

It is necessary to share specialized knowledge in current Japanese society as well as 19th century Britain in order to make society stable and happy. Martineau's Illustrations of Political Economy is a successful pioneer to share wider knowledge in society.

Compared with Evangelical Hannah More, Martineau had Unitarian peculiarities of being positive to changes and equal education. Martineau made use of tales in explaining political economy to ordinary people, while a governess taught it in plain dialogues with her girl student in Conversations on Political Economy written by Jane Marcet. Martineau's fusion of narrative and economics succeeded in presenting a wider readership with persuasive simulations to solve the contemporary social problems.

研究分野：英文学

キーワード：英文学 経済学 手引書 社会小説 メディア 女性作家 19世紀 ハリエット・マーティノー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19（共通）

1. 研究開始当初の背景

（1）ハリエット・マーティノー（1802-76）への低い評価の見直し

ハリエット・マーティノーは19世紀のイギリスでは極めて著名な女性知識人であり、その名声はアメリカにも知れ渡っていた。そのような高い評価を受けていたマーティノーであるが、20世紀以降の評価は極めて低いものであり、特に日本国内ではほとんど看過されている状況である。

研究代表者はマーティノーの独自性と先駆性に注目して長らく研究を重ね、単著『闘うヴィクトリア朝女性作家たち エリオット、マーティノー、オリファント』（2012）を上梓した。その後も彼女の奴隷制廃止論者としての側面から、ハイチの黒人奴隷から指導者となりナポレオンと戦ったトゥサン・ルーヴェルチュールを主人公にした歴史小説である『時の人』(*The Hour and the Man*, 1841) を分析し、マーティノーのジェンダー観を明らかにした（松本「ハリエット・マーティノーの『時の人』とジェンダーの境界」、2013）。さらにヴィクトリア朝小説の先駆者としてマーティノーの『ディアブルック』を分析し、中産階級である教師や医者主人公となった社会小説の先駆的事例と評価した（松本「専門職の意味と役割 *Deerbrook* と *Middlemarch* における医者とガヴァネス」、2014）。

（2）『経済学例解』（1832-34）の再評価と中心的テーマの分析

本研究で扱う『経済学例解』は、アダム・スミス『国富論』やトマス・マルサス『人口論』、デイヴィッド・リカード『経済学及び課税の原理』等、この時代に新しい学問であった経済学を物語により解説した25巻から構成されたシリーズである。月刊で2年にわたり出版されており、各物語の巻末には、その物語で解説されている経済学のまとめが付加されている。同時代の高評価とは裏腹に、20世紀に入り、マーティノーの作品はほとんど無視されてきたなかで、ドロシー・トムソンが、『アダム・スミスの娘たち』(*Adam Smith's Daughters*, 1973) で再評価をしているが、経済学の紹介書という限定的な評価に終わっている。また、文学分野では、ルイ・カザミアンが『英国社会小説』において、マーティノーの『経済学例解』の物語を、功利主義小説と称して、この後に誕生するチャールズ・ディケンズ等が書いた社会小説とは切り離し、異なるジャンルとして低評価を与えている。この評価が影響してか、この後もマーティノーの物語群を再評価する流れはない。

このような批評史の中で、研究代表者は、『経済学例解』の物語群に注目し、その網羅性と、先駆性を再評価することに着手した。このシリーズの中心的なテーマをこれまでに以下のように分析している。1. 貧困と労働者問題を扱った『マンチェスター・ストライキ』（『経済学例解』所収）をエリザベス・ギaskellの社会小説『メアリ・バートン』と比較研究した（松本「マーティノーとギaskell」、2011）。2. リカード『課税の原理』を解説した『ガーヴェロツホのエラ』（『経済学例解』所収）マルサス『人口論』を解説した『ガーヴェロツホの喜びと悲しみ』（『経済学例解』所収）を、経済学と文学の融合という観点から分析した（松本「*Illustrations of Political Economy* における経済学と文学の融合」、2011）。3. 奴隷制度を経済的非効率として批判したマーティノーの思想を分析した（松本「ハリエット・マーティノーの『デメラ』における奴隷制廃止論、功利主義、文明化の使命」、2012）。

上記の個別の研究を発展させて、シリーズ全体を見通す根源的総合的な研究テーマとして、手引書の観点から『経済学例解』を分析することが必要となった。

2. 研究の目的

本研究はハリエット・マーティノーの『経済学例解』を新たに手引書の観点から検証し、十分な知識を持たない一般の人々に専門的知識を普及するために有効な方法とその特性を明らかに

する。19世紀のイギリス同様に、現在の日本でも専門的知識を社会全体で共有することが、社会の安定や人々の幸福のために不可欠である。しかしながら、その方法は必ずしも確立されているわけではない。『経済学例解』はその成功事例として検証にあたっている。具体的な研究項目は下記2点である。

- (1) 知識を、貧富・階級の格差に起因する対立を解消するために、有効な手段としたマーティノーのユニテリアン主義の特性を説明すること。
- (2) 経済理論を、労働者や女性達に分かりやすくするために、物語を用いてシミュレーションを提示したことの有効性と先駆性を検証すること。

3. 研究の方法

第1には、知識を貧富・階級の格差に起因する対立を解消するために、有効な手段と考えたマーティノーのユニテリアン主義の特性を説明する。

(1) ハナ・モア(1745-1833)との比較研究

国教会福音主義派のハナ・モアとの比較研究を視野に入れながら、ユニテリアンであったマーティノーのユニテリアン主義の持つ平等性と教育重視の思想に焦点を絞り分析を進める。

(2) 理性的非国教会派としてのマーティノー

ユニテリアンは理性的非国教会派とも呼ばれ、キリスト教を合理的宗教として人道的に解釈する宗派である。ユニテリアンの教育重視の考え方は、社会改革を目指す自由主義的な傾向を持っていた。マーティノーの教育重視は、社会改革を支持するリベラルなものである。そのようなマーティノーのユニテリアン主義の特性を明らかにする。

第2に、ハリエット・マーティノーが『経済学例解』において、経済学理論を労働者や女性達に分かりやすくするために、物語を用いて経済学理論のシミュレーションを提示したことの有効性と先駆性を検証する。

(1) ジェイン・マーセット『経済学対話』(1816)とマーティノー『経済学例解』の比較研究

経済学を一般の人々に解説するという企画は必ずしもマーティノーが最初ではない。マーティノー自身が言及しているように、ジェイン・マーセットという先達がいる。ただし、マーセットの著書は、対話により経済学を学ぶという平板で単調なものである。しかしながら、マーティノーの『経済学例解』は網羅的に経済学の理論を扱って極めて大きな成功を収め、当時の政治家達にも影響を持つに至っている。そこには、経済学を解説することにより、社会改革を目指そうとするマーティノーの自由主義的な思想の特性があることを検証する。

さらに、マーティノーが『経済学例解』で目指したのは、彼女自身の言葉によれば「経済学の理論を具現化したもの、見ればすぐにわかる絵のようなもの」である。

(2) 「経済学の理論を具現化したもの、見ればすぐにわかる絵のようなもの」という目的に、なぜ物語という手法が有効であったのかを分析

マーティノーは、専門的知識のない人々に、経済学理論を解説し理解を進めるためには、理論の具体的なシミュレーションが必要であると考えたのではないか。その目的のためには、物語という手法が極めて有効となぜ考えたのか、歴史的経緯も含めて彼女の思想の特性を分析する。

さらに得られた結果を取りまとめ、研究成果の発表を行う。

4. 研究成果

国教会福音主義派のハナ・モアとの比較研究を視野に入れながら、ユニテリアンであったマーティノーのユニテリアン主義の持つ平等性と教育重視の思想に焦点を絞り分析を進めた。産業革命後のイギリス社会の混乱は、貧富の格差に根差す階級対立が深刻化し、フランス革命前夜のよ

うな危機的状況にあるとマーティノーは認識していた。彼女は、そのような状況を打破するためには、国民全体が問題意識を共有することが必要と考えた。本研究で扱う彼女の『経済学例解』は、19世紀イギリスが抱えていた社会問題を解決するための方法を提示しているシリーズである。同時にそのために必要となる経済学の知識の手引書となっている。

福音派の国教会信徒であるハナ・モアも18世紀末のイギリス社会を危機的な状況と認識し、マーティノーと同様に労働者等の下層階級の人々の教育を重視している。二人の大きな相違点は、モアが現世における不平等を受け入れることを求め、そのために信仰と教育を授けようとしたことに比較し、マーティノーはあくまで教育の平等により知識を共有し、社会変革（救貧法改正、穀物法廃止等）を目指したことにある。

以上の研究成果を、日本英文学会第88回大会シンポジウム「近代イギリスのチャリティを読む」や研究論文「Harriet MartineauとHannah More 政治・社会状況への危機意識と物語の役割」、「ハリエット・マーティノーの『シナモンと真珠』は帝国の物語か 『経済学例解』と植民地貿易」（『帝国と文化 シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで』所収）等で公表した。

次に、19世紀初期に新しい学問であった経済学理論を一般の人々、特に労働者や女性達が、理解しやすいように、物語を用いて経済学理論のシミュレーションを提示した『経済学例解』の有効性と先駆性を検証した。

『経済学例解』の先達でもある、ジェイン・マーセットの『経済学対話』と『経済学例解』との比較研究を実施した。経済学を一般の人々に解説するという企画は必ずしもマーティノーが最初ではない。マーティノー自身が言及しているように、ジェイン・マーセットという先達がいる。ただしマーセットの『経済学対話』は対話により、この学問を解説するものであり、家庭教師と女生徒が問答を重ねることにより、経済学を学ぶという平板で単調なものである。それゆえ、読者はおのずから女性に限定される傾向にあった。それに比較して、マーティノーの『経済学例解』は、同時代の社会問題を語る物語のなかで、経済学のシミュレーションを提示することにより、多くの読者を獲得した。この方法は、極めて大きな成功を収め、一般の人々を含めて、当時の政治家達にまで影響力を持つに至っている。それは、マーティノーの物語る力と政治・経済学的知識の両輪により、達成されたものである。マーティノーはこのシリーズにより作家としての名声を確立すると同時に、19世紀イギリス文学史において重要な社会小説に対しても先駆的な影響力を持つに至ったと考えられる。

以上の研究成果を、日本比較文学会中部大会シンポジウム「女性とメディア」や、研究論文「Harriet MartineauとJane Marcet 対話から物語へ」等で公表した。

研究代表者によるこれまでのハリエット・マーティノー研究から発展した本研究の研究成果は、特に日本国内におけるマーティノー研究に貢献し意義あるものとなっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

(1) 松本三枝子「Harriet Martineau と Jane Marcet 対話から物語へ」

『愛知県立大学外国語学部紀要(言語・文学編)』第50号、2018、pp.89-110.

(2) 松本三枝子「Harriet Martineau と Hannah More 政治・社会状況への危機意識と物語の役割」『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』第18巻、2017、pp.47-68.

〔学会発表〕(計 4 件)

(1) 松本三枝子「ハリエット・マーティノーからジョージ・エリオットへ 反奴隷制から人種問題へ」日本ギャスケット協会大会シンポジウム：イギリス小説における黒人表象あるいは不在、実践女子大学、2019.

(2) 松本三枝子「Daniel Deronda と Benjamin Disraeli」

日本英文学会中部支部第 70 回大会シンポジウム：英語圏文学・文化における移民・外国人の表象、愛知学院大学、2018.10.27.

- (3) 松本三枝子「イギリス社会小説と女性作家の役割 モアとマーティノー」
日本比較文学会第 44 回中部大会シンポジウム：女性とメディア、名古屋大学、2018.5.12 .
- (4) 松本三枝子「Harriet Martineau の *Illustrations of Political Economy* と Poor Law 先達としての Hannah More、Jane Marcet」日本英文学会第 88 回大会シンポジウム：近代イギリスのチャリティを読む、京都大学、2016.5.28.

〔図書〕(計 2 件)

- (1) 松本三枝子「イギリスの文学 主要な作家と文学作品の概要」『授業力アップのための英語圏文化・文学の基礎知識』開拓社、2017, pp.34-47.
- (2) 松本三枝子「ハリエット・マーティノーの『シナモンと真珠』は帝国の物語か 『経済学例解』と植民地貿易』『帝国と文化 シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで』春風社、2016、pp.382-401.

〔その他〕

書評 (計 2 件)

- (1) 松本三枝子「Linda H. Peterson. ed. *The Cambridge Companion to Victorian Women's Writing* (Cambridge: Cambridge UP, 2015)」『中部英文学』第 38 号、日本英文学会、2018、pp.19-21.
- (2) 松本三枝子「June Skye Szirotny, *George Eliot's Feminism: "The Right to Rebellion"* (Basingstoke: Palgrave Macmillan, 2015)」『ジョージ・エリオット研究』第 19 号、2017、pp.83-96.

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。